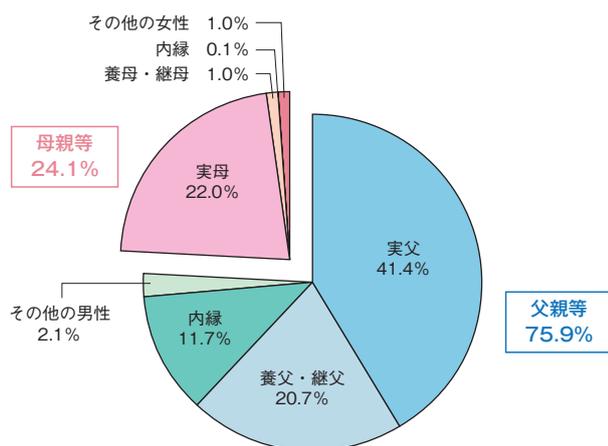


児童虐待における加害者と被害者の関係



(注)「その他の男性、女性」は、祖父母、伯(叔)父母、父母の友人・知人等で保護者と認められる者。

提供：警察庁

5 交通事故被害者等の支援のための連携

(1) 交通事故被害者等の支援

第9次交通安全基本計画（平成23年3月31日中央交通安全対策会議決定）では、「被害者支援の推進」を交通安全対策の柱の1つに掲げており、交通事故被害者とその家族・遺族（以下「交通事故被害者等」という。）への支援を推進していくこととしている。

ここでは、交通事故被害者支援のための連携に関する取組について紹介する。

(2) 交通事故被害者サポート事業

内閣府においては、交通事故被害者等が、深い悲しみやつらい体験から立ち直り、回復に向けて再び歩み出すことができるような土壌を醸成し、交通事故被害者等の権利・利益の保護を図ることを目的として、平成15年度から「交通事故被害者サポート事業」を実施している。

○ 各種相談窓口等意見交換会

各種相談窓口等意見交換会は、専門家による講演及び意見交換を通じ、交通事故相談所及び警察、関係団体等、各地域の交通事故被害者等の支援に係る関係団体相互の業務範囲の確認、効果的な広報啓発についての意思疎通及び連携強化を図ることを目

的としている。

平成26年度は、従来の参加者に加え、新たに社会福祉協議会の参加を得て、北海道、島根県、高知県の3道県で実施した。

○ 交通事故で家族を亡くした子供の支援に関する意見交換会

交通事故で家族を亡くした子供の支援に関する意見交換会は、平成23年度に作成した子供の親及び支援者向けパンフレット「交通事故で家族を亡くした子どもの支援のために」を紹介し、その活用を積極的に促すとともに、事例（体験談）及び意見交換を通じ、学校現場等で抱える交通事故で家族を亡くした子供の支援における問題点や課題等の意見を集約するほか、交通事故で家族を亡くした子供の支援に係る関係者間の連携を強化し、意思の疎通を図ることを目的としている。

平成26年度は、栃木県、岡山県の2県において、交通事故被害者等や子供の支援に係る関係機関の参加を得て、家族を亡くした子供の支援に関する専門家による講義、交通事故被害者遺族による講話の後、参加者による意見交換を実施した。

パンフレット
「交通事故で家族を亡くした子どもの支援のために」



○ 自助グループ運営・連絡会議

自助グループ運営・連絡会議は、自助グループ（「同じようなつらさを抱えた者同士が、お互いに支え合い、励まし合う中か

ら、問題の解決や克服を図り、被害に遭う前の平穏な生活を再び取り戻す」ことを目的に集うグループのことをいう。以下同じ。）の必要性の再確認に係る講義，自助グループの取組に係る情報交換，遺族の心理的・身体的症状と治療に向けた取組に係る講義及びグループワーク，その他必要なプログラムを通じて、「交通事故被害者等の回復のための自助グループ活動」を支援することを目的としている。

平成26年度は、東京都において、認定特定非営利活動法人全国被害者支援ネットワークに所属している被害者支援センターの支援員及び交通事故被害当事者団体の代表者等が参加して実施した。

コラム⑤

▶ 被害者ノート

犯罪被害者から「逮捕された人のために被疑者ノートがあるのなら、被害者のためのノートも欲しい」という声があったことから、任意団体「途切れない支援を被害者と考える会」において「被害者ノート」が作られました。

【被害者ノートとは】

被害者ノートは、犯罪被害者やその家族が後で役立つ記録を残せるよう作られた、書き込み式ノートです。「途切れない支援を被害者と考える会」は、犯罪被害者の体験を丁寧に聞き取った上で、被害当事者、弁護士、自治体職員、保健師、更生保護関係者、マスコミ関係者等が力を合わせて、被害者ノートを完成させました。犯罪被害者は依然として困難な状況に置かれており、被害者ノートの作成に携わった被害当事者や支援者は強い問題意識を持って被害者ノートの普及に取り組んでいます。

【被害者ノートが必要とされる背景】

警察署や検察庁、裁判所、地方公共団体など様々なところで、犯罪被害者への支援が行われています。しかし、犯罪被害者の立場から見ると、各機関・団体で行われている支援は、ぶつぶつと途切れており、犯罪被害者からはぼろぼろになりながら自分で支援してくれそうなところを訪ね歩いたという声が少なからず聞かれます。

例えば、被害を受けたことから生じる心の傷や内科的な症状のための病院探し、犯罪被害者支援に精通した弁護士探し、事件事故後の様々な手続きに翻弄されて家事や育児にまで手が回ら

被害者ノート（表紙）



提供：途切れない支援を被害者
と考える会

なくなったり、家族の通院等もままならなくなったりした場合の相談窓口探し等を犯罪被害者は自らしています。また、ようやくたどり着いたと思った支援先で二次被害を受けることもあり、どこにも相談できないというような孤立感を抱いたりする現状もあります。

【被害者ノートの特長】

細部にまで被害者の声を取り入れて作成されています。字が大きく、色分けされているほか、コピーしたり誰かに見せたりするページは必要な部分だけを見せられるよう、コピーしやすいリングノート式になっています。

また、つらい体験を思い出して書き込む部分もあるため、途中で一息つけるよう、枠外に温かいタッチのイラストが載せられています。「今日を生き抜くことで希望が見えます。生きることをあきらめないで」

「救急隊の記録は直後の事実を知るのに大変役立つことがあります」「ちょっと先輩の私は、このノートを手にしたあなたたちの力になりたい」「掃除、洗濯、買い物でも、あるサービスは利用しましょう」など、作成に携わった犯罪被害者や支援者が考えたコメントも書かれ、被害直後の犯罪被害者に届けたい様々なメッセージとなっています。

【被害者ノートの活用】

被害者ノートは、「手渡して終わり」ではなく、犯罪被害者が被害から回復していく過程で支援者と一緒に歩むために使われることが想定されています。日々色々なことに巻き込まれているような生活では、どのようなことで困っているのか自分でも分からない場合もあります。今何に困っているのか、困りごとリストや手続リストと一緒にチェックすることができます。

犯罪被害者は、事件事故に巻き込まれる前は、自分で様々な決定をして生活をしてきました。被害者ノートの活用に当たって、支援者には、犯罪被害者本人が何を望んでいるのか、どうなりたいのか、被害者自身が決定できるように意識しながら関わることを期待されています。

被害者ノート (書き込み式)



提供：途切れない支援を被害者と考える会

※ 「途切れない支援を被害者と考える会」は、犯罪被害者の回復に資する途切れない支援の実現を目的に活動する任意団体です。